

JAFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

令和8年1月31日 発行 第101号

(一社)日本釣用品工業会 大村会長年頭所感

新年、謹んでご挨拶申し上げます。旧年は(一社)日本釣用品工業会の活動に多大なるご尽力を賜りましたことを、心より御礼申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人
日本釣用品工業会
会長 大村 一仁

ものづくりの力が、未来を拓く

釣り市場を取り巻く環境は依然として厳しく、新規層の減少とファン層高齢化により踊り場的な状況が続いている。そして猛暑や異常気象に加え、旧年はクマ出没の事案も重なり、アウトドアレジャーへの不安に拍車をかけました。

経済・社会に目を向ければ、燃料や米・食料品価格の高騰、円安と米国の関税引き上げによる消費マインドの冷え込み、ウクライナや中東などの地政学的リスク、対中関係悪化によるインバウンド需要縮小など、多くの課題が横たわっています。

しかし一方で、新しい技術や発想を取り入れた製品が市場を動かし、新たな活気をもたらし始めています。こうした挑戦を続ける皆さまの存在は、この業界には未来を切り拓く力が確かに息づいていますことを示してくれています。

釣りはウェルビーイング社会のレジャー

また、国際社会においても新しい風が吹き始めています。国際アジェンダは2030年までの持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) と、その先のSWGs (Sustainable Well-being Goals) を見据えています。これからは開発や発展だけでなく、いかに健やかな心と身体で幸福に生きていけるかを重視する時代です。

釣りは、生命と向き合い、自然と調和し、心身に癒しと活力を与えてくれるレジャーです。そして家族や仲間とのコミュニケーションを育み、人生の豊かさを実感させてくれます。この釣りの魅力こそ、これからの社会に必要なものだと私は確信しています。

その思いを胸に、私たちは、人と社会のウェルビーイングに寄り添いながら、できることを一つひとつ丁寧に進めていきたいと考えています。その一つが、今年14年目を迎える「LOVE BLUE」事業です。340社(25年11月末時点)の企業が参加し、「水辺をキレイに(清掃)」「サカナを守ろう(放流)」「フィールドを広げよう(わかさぎ支援)」の優先3事業を軸に、釣り場の未来を守る活動を続けていきます。今後はさらに、釣りマナーの啓発にも力を注ぎ、すべての釣り人が誇りを持ってフィールドに立てる環境をつくって参ります。

また1月16日からは新年最初のビッグイベント「釣りフェス2026 in YOKOHAMA」が開催されます。参加企業・団体は、過去最多の262社。これは、釣りの未来に対する強い期待の現れでもあります。2年目となる「釣りフェス神社」では、絵馬やおみくじを通して“釣り人の初詣”を根付かせます。レスポンシビリティコーナーでは、LOVE BLUEの取り組みや子供用ライフジャケットの展示など、安全と責任ある釣り文化をより幅広い層への普及を進めます。

他にも安心・安全に釣りを楽しむための取り組みとして、海上保安庁が作成するウォーターセーフティガイドの普及協力、膨脹式ライフジャケットの無償点検や着用啓発などを、今まで以上に推進して参ります。

未来に誇れる“釣り文化”を、共に

先人が築き上げた豊かな釣り文化と技術を大切に継承しながら、私たちは新たな時代にふさわしい釣り文化を探求します。人、自然、社会をつなぎ豊かにする釣りの可能性を信じ、釣り業界の課題解決にむけて衆々と事業を推進していく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

大村会長 新年のご挨拶	P. 1
釣りフェス2026開催速報	P. 2
ロイヤルアングラー賞2026	P. 4
LOVE BLUE委員会からのお知らせ	P. 5
規格・安全委員会からのお知らせ	P. 6
市場調査委員会	P. 7
ミライ・ミッションプロジェクト	P. 8
第53回理事会報告	P. 8
会員動向/事務局だより	P. 8

目次

釣りフェス

Fishing Fest. 2026 in YOKOHAMA

2026年1月16日（金）から18日（日）までの3日間、パシフィコ横浜にて「釣りフェス2026」を開催いたしました。節目となる第30回目を迎えた本年は、過去最多となる262社が出展。主催者と出展各社が一丸となり、多くの来場者をお迎えすることができました。

会場の核となる「釣種別スタジアム」には、船・へら・淡水・バス・ソルト・トラウト・フライの7釣種に、153社が集結。各ブースでは最新製品や技術に触れられる機会が提供され、熱心な釣りファンが至福のひとときを過ごしました。

企画・アトラクションコーナーでは、昨年に引き続き「釣りの学校」を2教室で展開。「ノット教室」「鮎ルアー講座」「海釣り施設の釣り方」など、釣りの基礎から新たな釣りの楽しみ方まで、幅広いテーマを分かりやすく紹介しました。

また、大型プールを使用した「マス釣り体験」には800名を超える子どもたちが参加し、魚の引きに歓声を上げる姿が見られ、次世代の釣り人を育む貴重な機会となりました。

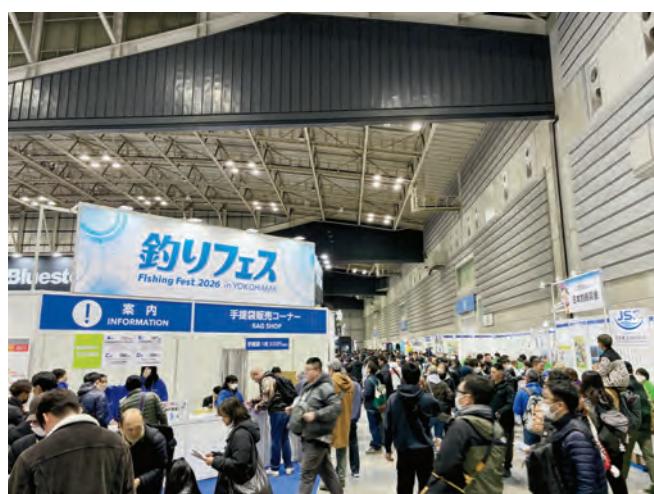
2年目の開催となった「釣りフェス神社」は、今年も横浜・伊勢山皇大神宮様の全面協力のもと、新たな企画を加えて実施しました。釣り人向けに文章を書き起こした「釣りみくじ」は大きな反響を呼び、「釣りフェスオリジナル絵馬」も例年同様、多くの方に一年の釣行安全や釣果向上を祈願していただきました。神社周辺には「金魚すくい」「輪投げ」などの縁日コーナーを設け、向かいには「にぎわいマルシェ」を配置することで、会場全体の一体感と賑わいを創出しました。「一年の計は、釣りフェスにあり」という言葉が、より一層定着する場となりました。

このほかにも、毎年好評の「釣りめしスタジアム」や、大型キャスティングエリアを活用した著名プロアングラーによるデモンストレーション、初心者向けキャスティング体験講座など、多彩なプログラムを実施しました。

新企画としては「リクルートサポート」を実施し、釣り業界に関心を持つ求職者と出展企業とのマッチングを支援。参加者は真剣な表情で企業担当者の説明に耳を傾け、業界の新たな可能性を感じさせる取り組みとなりました。

3日間の来場者数は、天候にも恵まれ、37,846名（前年比106.0%）を記録。第30回にふさわしい盛況のうちに幕を閉じることができました。

次回「釣りフェス2027」は、2027年1月22日（金）～24日（日）にパシフィコ横浜にて開催いたします。



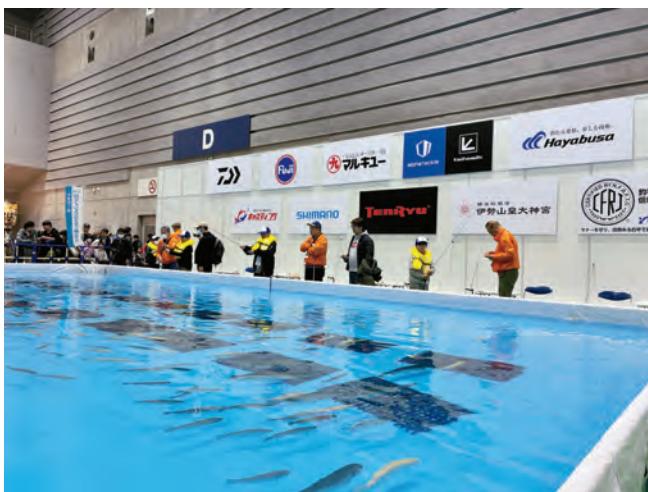
釣りフェス2026には、過去最多を更新する262社の企業・団体様に出展をいただき、3日間で37,846名（前年比：106%）にご来場をいただきました。



釣種別スタジアムには、7釣種に153社が集結。多種多様な出展社が勢揃いし、熱い釣りファンのハートをくすぐる製品が展示されました。



2年目を迎えた「釣りフェス神社」では、「オリジナル絵馬」や「釣りみくじ」の頒布の他、伊勢山皇大神宮の神職による「安全釣行」「大漁」祈願が行われました。



大型プールを使用した「マス釣り体験コーナー」では、3日間で800名を超える子供たちが、魚の引きを体感。生き物の躍動感に触れる貴重な機会を創出しました。



「釣りの学校」では、様々なプログラムを展開。釣りのステップアップにつながる講座に多くの釣りファンが参加しました。横浜市との協業の「次世代育成事業」では、市内の小中学生が「海辺の環境」について学びました。



大人気の「釣りめしスタジアム」では、多くの来場者が魚を食材にした「釣りめし」に舌鼓を打ちました。テーブルや座席数を増やしましたが、満席状態が続きました。



ロイヤルアングラー賞2026を受賞された藤木直人さんが忙しい合い間にぬって、人気YouTuber「釣りいろは」さんとともに来場されました。

「ロイヤルアングラー賞 2026」受賞者

(一社)日本釣用品工業会(所在地:東京都中央区 会長:大村一仁)では、2008年度より、経済・文化・芸能・スポーツなど各界でご活躍の方々の中から、釣りに造詣が深く、趣味として愛好されている方、また釣りおよび釣り文化の発展に寄与されている方を毎年選出し、感謝の意を込めて「ロイヤルアングラー賞」として表彰しております。

2026年は、俳優の藤木直人氏を選出し、表彰させていただきます。

藤木直人(ふじき・なおひと) 氏 プロフィール

俳優・ミュージシャン。千葉県出身。1995年に俳優デビュー後、数々のドラマや映画、舞台に出演。知的で爽やかな印象と確かな演技力で幅広い世代に支持されている。

また、音楽活動にも積極的に取り組み、俳優・アーティストとして多彩な表現活動を続けている。多忙な日々の中でも自然を愛し、趣味の「釣り」を通じて心身のバランスを取っているという。俳優仲間にも釣りの楽しさを広める“釣り伝道師”として的一面も持つ。



釣りを始めたきっかけ、釣りに関わるエピソード

子どもの頃、近所の川で「鯉が釣れる」と聞き、団子釣りに挑戦したのが最初の出会いでした。ただ、当時は教えてくれる人もおらず、まったく釣れなくて。「釣りって難しいな」と感じた記憶があります。それからしばらく釣りから離れていましたが、音楽活動で地方に行くようになってから、釣り好きなバンドメンバーやスタッフに誘われて再び竿を握りました。そこから徐々に興味を持つようになり、YouTubeで釣りを勉強するようになりました。

その中で九州を拠点に活動しているYouTuberの「釣りいろは」のファンになり直接連絡を取って、九州まで行ったりして、動画にも出させていただきました。玄界灘・七里ヶ曾根での鰐や青物との出会いは、今でも忘れられません。

釣りは、一人で始めようとすると少しハードルが高いかもしれません。だからこそ、最初に「優しく教えてくれる誰か」の存在がとても大切だと思います。僕も、後輩の俳優たちに「釣りをやってみたい」と言われると、ボートを手配して一緒に海へ出ます。

好きな釣り

今は東京湾がホームグラウンドです。季節ごとの旬の魚を狙い、釣った魚は必要な分だけ持ち帰って自分で捌きます。釣りの後は、その魚を食卓に並べて、仲間と「今日の釣り話」で盛り上がる。僕にとっては、そこまでが「釣り」の楽しみなんです。



最近は、東京湾の海の変化も感じています。タチウオが一年中釣れるようになったのは嬉しいですね。調理も簡単で

本当に美味しい。

これからもいろいろな魚にチャレンジしたいと思っていますが、陸っぱりのシーバス釣りが僕の原点なので、シーバスには特別な思い入れがあります。なので自己記録の77cmを超えるシーバスは狙いたいです。

釣りの魅力は

何よりも、魚が掛かった瞬間の“生命が伝わる感覚”。静寂の中から一瞬で竿先に命が宿るあの瞬間は、言葉では言い表せないほどの興奮です。

だから僕は、よりダイレクトにその感触を味わえるルアーフィッシングが好きですね。

夏に子どもが小さかった頃、一緒にカブトムシやクワガタを採りに行ったりしました。昆虫採りも自然の偉大さを感じますよね。でも、釣りはそれをさらに大きなスケールで感じられる。海の中には、想像もつかないほど多くの生き物がいて、その生命力に触れるたびに「自然って本当にすごい」と思います。自然の豊かさ、命のつながりを感じられるのも釣りの大きな魅力です。

そして、もうひとつの楽しみは“道具選び”。

魚種ごとに専用タックルがあり、「このルアーが釣れる」と聞くと、つい手に取ってしまいます(笑)。

仕事が忙しく、今は月に1~2回行けるのが精一杯ですが、いつかもう少し自由な時間ができたら、海外の海にも挑戦してみたいですね。

釣りは、自然と向き合いで、自分とも向き合う時間。

そして、人と人をつなぐ素晴らしい趣味です。このような賞をいただけたことを励みに、これからも釣りの楽しさを多くの人に伝えていけたらと思います。



LOVE BLUE委員会からのお知らせ

釣りフェス2026 in YOKOHAMA

2026年1月16日（金）～18日（日）の3日間開催されました、釣りフェス2026では、入口正面のレスポンシビリティブースにて、優先三事業や釣りマナーの普及啓発を行いながら、事業の認知拡大の為、事務局がブースに立ち、釣りマナーステッカーを配りながら、事業の説明やアンケート調査を行いました。また、退場口・再入場口やエスカレーター上部には釣り人の皆様へ感謝を伝える広報を行いました。



LOVE BLUE プロダイバーによる水中クリーンアップ活動

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動（10月から12月）は、9県で63日間実施（2025年度累計：1道19県133日実施）致しました。2025年度は残り13日間になります。

2026年度も全国公平に皆様に喜んで頂けるよう、安全作業を最優先に、ご関係の皆様と連携しながら実施して参ります。実施日時、場所については公式SNSにてリアルタイムで掲載しておりますので、併せてご確認下さい。

10月～12月までの実績

期間	実施日数	実施場所	
10/1～10/3	3日間	滋賀県高島市	新川舟溜
10/5～10/7	3日間	滋賀県高島市	針江大川舟溜
10/9～10/11	3日間	滋賀県高島市	生水川舟溜
10/13～10/16	4日間	滋賀県長浜市	南浜漁港
10/18～10/22	5日間	滋賀県近江八幡市	佐波江舟溜
10/24～10/28	5日間	滋賀県大津市	膳所港
11/1～11/5	5日間	大分県佐伯市	霞ヶ浦漁港
11/8～11/12	5日間	鹿児島県姶良市	加治木港（旧港）
11/15～11/19	5日間	長崎県時津町	子々川漁港
11/22～11/26	5日間	広島県江田島市	深江漁港
11/29～12/3	5日間	高知県土佐清水市	清水漁港
12/6～12/10	5日間	徳島県海陽町	宍喰漁港
12/13～12/17	5日間	岡山県瀬戸内市	牛窓港
12/20～12/24	5日間	千葉県南房総市	千倉漁港



水中清掃

水産庁後援 つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業 内水面釣り場拡大事業(ワカサギ)

水産庁後援 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）は本年度、栃木県の栃木県鬼怒川漁業協同組合を採択致しました。実施フィールドは同県塩谷町の東古屋湖（ひがしこやこ）になります。同漁協では、東古屋湖のワカサギ釣り場発展の他、栃木県水産試験場との連携による県内産ワカサギ受精卵の生産も目指してお取り組みいただきます。尚、応募要領は水産庁から各都道府県内水面担当部局、全国内水面漁業協同組合連合会から各都道府県内水面漁業協同組合連合会等、さらに国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所から各都道府県水産試験場へ配布・周知されておりました。

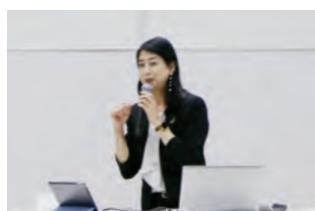


地球環境基金 企業協働プロジェクト LOVE BLUE助成

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金と連携したLOVE BLUE助成では、本事業で採択された水辺の環境保全を目的に活動する9団体（2015年度助成開始以来累計43団体）が、各地で活発に活動されています。その中で、河北潟クリーン作戦実行委員会・（特非）Aqua Dream Project・（特非）勿来まちづくりサポートセンター・（一社）Clear Water Projectの3団体の皆様に、1/16（金）～18（日）の3日間開催されました釣りフェス2026にて活動報告を行って頂きました。



河北潟クリーン作戦実行委員会



Aqua Dream Project



勿来まちづくりサポートセンター



Clear Water Project

規格・安全委員会からのお知らせ

ライフジャケット展示

ライフジャケット安全・啓発WG（友繁淳史リーダー）では、日頃よりライフジャケット着用の啓発と点検の重要性への取り組みを業界内外、釣り人の皆様にお伝えしております。釣りフェス2026では、ライフジャケット普及、着用推進に取り組む日本小型船舶検査機構及び一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会と合同でブースを設営し、来場者に「信頼あるライフジャケット」の着用推進をPRいたしました。当ブースでは、ライフジャケットの日常点検の重要性、国土交通省型式承認品ライフジャケットと性能鑑定適合品ライフジャケットの着用体験や、ノベルティの配布を行いました。

また、小型船舶関連事業協議会一・二部会にご協力いただき、国土交通省型式承認品膨脹式ライフジャケットの無償点検を実施いたしました。無償点検については、当工業会HP、釣りフェスポスター内でも告知を行いました。



釣糸展示

釣糸WG（中崎順仁リーダー）では、釣糸の標準規格（JAFS基準）の遵守と普及を呼び掛ける活動を行っております。釣りフェス2026では、釣糸の号数ごとの巻量の違いや、釣糸JAFS基準を遵守している釣糸と遵守していない釣糸の同号表示の巻量の違いの展示を行い、来場者にJAFS基準のPRを行いました。



釣用加工餌展示・環境保全eマーク展示

基準遵守メーカー皆様にご協力いただき、展示を行いました。



市場調査委員会からのお知らせ

市場調査委員会（岡田信義委員長）では、2025年12月2、3日（2日間）にて第41回市場調査委員会を開催し、「第29回釣用品の国内需要動向調査報告書」の報告書掲載数値をまとめました。アンケート調査にご協力いただきました会員企業様をはじめ、ご関係先の皆様に厚く御礼申し上げます。是非、業界動向の把握等にご活用ください。（報告書は2026年1月30日に発刊いたします。）

海外戦略プロジェクトからのお知らせ

釣りフェス2026 海外広報用チラシデータ作成

海外戦略プロジェクト（高階義尚リーダー）では、釣りフェス2026 in YOKOHAMAの開催に向け、海外へ広報を行うためのチラシを作成致しました。海外ビジネス情報に登録者様へ配布させて頂きました。

また、釣りフェス会場内では、JETRO中国からのお客様、日本・東京商工会議所国際部のお客様を接遇し国内外の関係団体との交流を深めました。

今後も海外の有用情報をお送りさせていただきますので、是非ご登録下さい。

<https://www.jaftma.or.jp/service/others/>

（※これまでご登録いただいた皆様の改めてのご登録は不要です。）

お申込み後、3営業日以内に事務局よりURL及びアクセス用ID・パスワードをお送りいたします。



ミライ・ミッションプロジェクトからのお知らせ

ミライ・ミッションプロジェクト（小野俊郎リーダー）では、去る12月8日（月）に第3回のプロジェクト会議を開催しました。釣り業界における現状の課題や将来の業界リスクなどが共有され、日釣工の立ち位置や方向性などをテーマに議論を行いました。

第53回理事会 開催報告

去る令和7年11月27日（木）にリアル開催（会場：ホテル阪急レスパシア大阪）にて第53回理事会が開催されましたので概要を報告いたします。

第1号議案 委員会活動報告および協議

- (1) JAF実行委員会
- (2) LOVE BLUE委員会
- (3) 規格・安全委員会
- (4) 市場調査委員会
- (5) 広報組織委員会
 - ① 広報・拡大WG
 - ② 組織強化WG

第2号議案 プロジェクト活動報告および協議

- (1) ミライミッションプロジェクト
- (2) 海外戦略プロジェクト

第3号議案 令和7年度中間決算監査報告に関する件

第4号議案 会員代表者変更 及び 入・退会会員に関する件

第5号議案 (一社)日本釣用品工業会 後援名義使用許諾申請に関する件

第6号議案 その他報告承認事項に関する件

- (1) 令和8年度（2026年度）大会議開催日程に関する件
- (2) 第7回役員選考委員会に関する件
- (3) 団体PL保険に関する件
- (4) 規定変更の方向性確認・承認に関する件
 - ① 入会金及び会費規則、会費施行規則（口頭報告）
- (5) その他

全ての議案が承認されました。詳細は議事録にてご確認をお願いいたします。

会員動向

〈会員代表者変更〉

会員企業名：株式会社タックルハウス

新代表者：及川 忍 氏

前代表者：渋木 英一 氏

〈賛助会員退会〉

株式会社スペースキー



事務局だより

- ◆本年もどうぞよろしくお願い致します。事務局一同、当工業会の各事業の推進と活性化を図ってまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
- ◆会員企業様に向け、弁護士による初回無料法律相談を実施しております。詳細は、事務局までお問い合わせください。

JAFTMA
JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人
日本釣用品工業会



〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館5F
TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929 <https://www.jaftma.or.jp/>

